

寸言

京セラ株式会社
執行役員 機械工具事業本部長
長島 千里



航空宇宙産業への貢献

新年あけましておめでとうございます。昨年度は皆様に大変お世話になり、ありがとうございます。本年も何卒宜しくお願い致します。

京セラの機械工具事業本部は金属加工に使用される切削工具と建築、木工、金属加工に使用される電動工具を開発、生産、販売する事業本部です。特に航空宇宙関連部品加工は重要分野として、グローバルに展開しております。日本をはじめ、米国、欧州のボーイング、エアバス等の航空機関連のお客様へ切削加工を通じて生産性改善に貢献できる様に、日本、米国、デンマーク、英国等の開発・生産拠点や英国のAMRC等の外部機関を通じて現地をサポートをさせていただいております。

私はドイツ、デンマークに14年駐在し、航空機関連のお客様にCFRP、複合材等の加工の最適化に弊社の切削工具で関わる事が出来たことを大変嬉しく思っており、日本の航空宇宙産業に微力ながら貢献させていただきたいと考えております。

現在、京セラでは「削って分かる世界から、削る前に分かる世界へ」を実現すべく、デジタル技術・シミュレーション技術を使って熱伝導分析、切り屑処理分析等を行い、試作品を作成する時間を削減し、開発期間短縮をするようにしています。また加工中の異常振動・周波数をセンサーでリアルタイムに検知し、無線通信で工作機械、オペレーターに伝達するセンシングツール技術開発を進めており、これにより高価な被削材での無駄の削減に貢

献する事ができると考えております。また、切削加工においてもCO₂削減に貢献する事も考えています。工場単位では削減活動は行われていますが、現場単位ではどのように削減すればよいのか難しい面があるかと思えます。我々は「切削加工におけるCO₂排出量の見える化」を提言しております。工程別のCO₂排出量計算式のソフトをWeb上で公開し、現在地、工程別切削条件等の入力で現在のCO₂排出量の見える化を行い、CO₂排出量を削減する為の工具選択、切削条件の提言を行っております。今後も京セラグループの技術を活用し、切削工具技術を高め、お客様の生産性向上に貢献させていただきたいと考えております。

コロナは世界の航空機需要に大打撃を与えましたが、3年を経て回復の兆しが出てきております。リモートでの仕事に限界を感じているのか対面での商談を求めて海外出張者が増えており、減便の影響もあるとは思いますが、各フライトは満席の状況が増えていると思えます。実際、弊社の欧州、米国拠点では航空機関連事業での回復が顕著になってきておりますので本年は日本を含めさらなる回復を期待しております。

最後になりますが、日本の航空宇宙産業がさらに発展し、我々は切削加工という分野で新技術による生産性向上とCO₂削減による環境への貢献を提言できればと考えます。2023年が日本の航空宇宙産業にとって飛躍の年となる事を心より祈念いたします。